



第 12 号

編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」編集クラブ



3月25日に竣工したスポーツセンター

「学び、輝き続ける」シニアの力

園田学園女子大学

学長 川島 明子

昨今、社会の持続的な発展と経済再生を支えるための教育制度や学校教育法の改正等、教育改革の話題が世間を賑わしています。

平成27年3月、教育再生実行会議は、「社会に出た後も、多様な全ての人が、都市でも地方でも、学び、輝き続ける社会を実現する必要がある。教育の在り方としては、人々が、それぞれの能力、可能性を最大限伸ばして、活躍する全員参加型社会の実現をめざし、従来の意識や仕組みを変え、生涯にわたって、仕事と生活、学びの調和（ワーク・ライフ・スタディ・バランス）を図る視点も重要だ」と提言しています。

本学は、地域に根ざした大学をめざし、開かれた生涯教育の拠点として、35年以上の実績を重ねてまいりました。

総合生涯学習センターに平成14年に開設されたシニア専修コースは、それぞれの場で社会貢献された方々が、この提言の「ライフ・スタディ・バランスを図る視点で学び、輝き続ける」をまさに実践しているコースであると考えています。

受講生の皆様は、豊かな経験を持ち、社会で生きぬく知恵も備えたうえで最新の知識の習得に積極的で、社会で学び、輝き続ける意義を理解されているアクティブシニアの代表です。

東日本震災後、国内外ではまだまだ様々な問題が山積している現在、人生経験や職業生活を含め、人間の生き方のお手本であるシニアの力が必要とされています。さらに、皆様が大学キャンパスを利用し、学生とライフスタイルを共有し学び続ける姿勢は、次世代を担う学生に精神的成長を促す等、教育環境という観点からも多くの効果があるものと期待しております。

本学の学びが皆様の生きる喜びを増し、幸福で豊かな人生を送られるための一助となるよう講座の充実、発展に努力してまいりたいと思っております。

今後とも一層のご支援をよろしくお願いいたします。

最後に健康に留意され、学び、輝き続けるシニアの力を楽しく継続されることを、心より祈念しております。

目次

表紙 「学び、輝き続ける」シニアの力	川島 明子学長	P1
先生方からのメッセージ	講師の方々	P3
総合生涯学習センターからのお知らせ	総合生涯学習センター	P9
平成26年度卒業式	研究生 中村米三郎	P10
平成27年度入学式	研究生 中村米三郎	P11
平成27年度新入生誌上座談会	「けやき便り」編集クラブ	P12
シニア専修コース誕生！そして研究生へ	研究生 勝見 彦義	P14
「園田・民博連携講座」に参加して	研究生 中村米三郎	P15
講義で学んだベトナムの料理を味わう	国際3年 樽井 敏彦	P16
文学歴史学科3年卒業旅行	研究生 橋本 秀明	P17
国際文化学科3年間を終えて	研究生 村井 豊治	P18
情報学科卒業記念ランチ会	研究生 野間 淑美	P19
「国際文化学科1年生懇親会」を実施	国際1年 櫻井 秀也	P20
「情報学科新入生歓迎会・懇親会」に参加して	情報1年 岡田 真人	P21
楽しいマジックで社会に貢献したい	国際3年 落田 義隆	P22
身近な異文化に接して	国際3年 楊 錦華	P23
主人在宅ストレス症候群	情報3年 徳田 将之	P25
東南アジア4ヶ国を旅する②	研究生 十河 和夫	P26
HPの検索方法	「けやき便り」編集クラブ	P29
読者の広場	「けやき便り」編集クラブ	P30
応募依頼・編集後記	「けやき便り」編集クラブ	P31

シニア専修コースでご指導を頂く先生方からのメッセージ

なお、敬称は省略、順序はあいうえお順で掲載させて頂いています。

1 段目	お名前	2 段目	お写真	3 段目	役職名
4 段目	ご担当科目	5 段目	メッセージ		

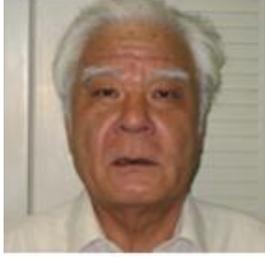
文学歴史学科、国際文化学科

岩崎 日出男	大江 篤	影山 尚之
		
本学教授	本学教授	本学名誉教授
漢詩・漢文の世界(前期) 仏教の歴史と思想(後期)	日本史学 (1)	日本文学 (1)
私たちの生活に身近な仏教行事(お盆・お彼岸・49日など)を通して、仏教の思想を講義します。また漢詩や故事成語を中心とした、日本人にもなじみ深い作品から中国の歴史や文学を学んで載きたいと思います。	今年度は「日本史学 (1)」を担当いたします。1 学期は「<崇り>の古代史」、2 学期は「古代東アジアの<祈り>」がテーマです。史料に向き合い、体感できる歴史学を目指します。	シニア専修コースに復帰させていただきました。よろしくお願ひします。みなさまの熱意にいつも圧倒されます。
河合 利光	桐藤 薫	金セツピョル
		
本学名誉教授 大阪大学講師	本学非常勤講師	国立民族学博物館外来研究員
アジア太平洋文化論 (前期) 国際総合研究(1)、(2) 国際文化研究	東洋史概説 東洋史特論	文化人類学入門 (後期)
本年度もよろしくお願ひ致します。園田・民博連携講座でもお会いします。	歴史を学ぶことを通して他者を理解し、ひいては自己を理解することに繋がればと願っております。	宗教と儀礼を中心に文化人類学を学びましょう。身近なところから遠いところまで、相対的に世界をみる楽しさを分かち合いたいと思います。

文学歴史学科、国際文化学科

窪田 暁	久禮 旦雄	桑原 一歌
		
<p>奈良県立大学専任講師</p>	<p>京都産業大学非常勤講師</p>	<p>園田学園女子大学 シニア専修コース講師</p>
<p>文化人類学入門 (前期)</p>	<p>日本史学 (2)</p>	<p>日本文学 (2)</p>
<p>専修コースでの偶然の出会いを大切に、「一期一会」を満喫しましょう！</p>	<p>今年は日本における「年号 (元号) の歴史」を扱います。中国に生まれ、東アジア世界に広がり、今や日本のみがその伝統を継承している年号 (元号)。その継受と展開、当時の政治・社会・文化との関係を史料に即して見ていきます。</p>	<p>「日本文学 (2)」では『源氏物語』第三部の講読を担当いたします。どうぞよろしくお願ひします。</p>
高 賛侑	谷川 泰教	中村 直人
		
<p>ノンフィクション作家</p>	<p>高野山大学名誉教授</p>	<p>関西学院大学教育学部准教授</p>
<p>韓国の歴史と文化</p>	<p>仏典を読む</p>	<p>戦国大名とその時代 (前期)</p>
<p>近年めざましく発展する韓流ブーム。でも「近くて遠い国」といわれてきた韓国の実像はさほど知られていないのでは。本講座では、朝鮮半島の歴史や文化を反映した映画・映像の秀作を観賞しながら、韓国社会を理解し、より良い日韓関係のありようについて考えます。</p>	<p>書店では一般向けの仏教書やブッダに関する本を多く見かけますが、できるならブッダのナマの言葉に近いものを自分の目と心で読んでみたいものです。そのお手伝いができたらと願っています。</p>	<p>日本中世史 (寺院史) を専門としています。授業では戦国大名について扱います。歴史小説ではなく歴史学では、戦国大名をどのように捉えているのか。私自身考えながら、皆さんに提示することができたら幸甚です。</p>

文学歴史学科、国際文化学科

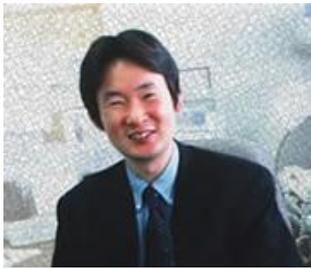
<p>本城 二郎</p>	<p>松本 和明</p>	<p>松山 利夫</p>
		
<p>関西チェコ／スロバキア協会理事 大阪大学言語文化研究科 非常勤講師（チェコ語担当）</p>	<p>西宮神社文化研究所 主任研究員</p>	<p>平安女学院大学特任教授 国立民族学博物館名誉教授</p>
<p>国際地域文化Ⅱ</p>	<p>日本史学（3）</p>	<p>多文化共生論 日本の風土と文化</p>
<p>P 6 に記載しています。</p>	<p>江戸時代、西宮神社の歴代神主が記した日記を皆さんと少しずつ読んでいながら、江戸時代の神社や社会について考えてみたいと思います。最初は少々難解にお感じになるかもしれませんが、慣れてくると登場人物の心情の機微まで読みとれるような、大変面白い史料だと思います。</p>	<p>仲間をふやしましょう！ 知的な雰囲気を楽しみましょう。</p>
<p>水田 かや乃</p>	<p>山口 悟</p>	<p>吉田 ゆか子</p>
		
<p>本学教授 近松研究所研究員</p>	<p>大阪学院大学准教授</p>	<p>国立民族学博物館外来研究員 日本学術振興会特別研究員</p>
<p>日本芸能史</p>	<p>ヨーロッパの社会と文化 アメリカの社会と文化 西洋文化特論</p>	<p>国際地域文化Ⅰ</p>
<p>日本の芸能史を1年をかけてたどります。本物に触れて実感していただくために、前期はたきぎ能と文楽鑑賞教室を観に行きます。人間に生きる力を与える芸能の奥深さを、一緒に探究し、楽しみましょう。</p>	<p>歴史を楽しみましょう。</p>	<p>インドネシアは戦後のアジアを考える上で、また観光と文化や政治の関係を考える上で重要な場所です。授業を通じ、皆さんがインドネシア、そしてアジアの国々を、新たな目で見るができるようになれば嬉しいです。</p>

文学歴史学科、国際文化学科

<p>吉村 稠</p>	<p>吉本 康子</p>	<p>【本城 二郎先生メッセージ】 私は、縁あって、チェコに7年、スロバキアに2年留学し、現在、中東欧を中心に欧州言語文化研究を続けています。皆様は、外国旅行や外国滞在の経験者も多く、外国への関心が高いと聞き及んでいます。本授業では、世界遺産や略史や簡単な日常会話表現、さらには芸術文化にも触れることにより、欧州文化の全貌解明を目指します。共に頑張りましょう！</p> <p>【吉本 康子先生メッセージ】 大阪市内を自転車で走っていると、中国語やベトナム語を話す人たちを頻繁に見かけます。この授業では、戦争終結から40年を迎えたベトナムの事例を中心に、アジアの人々の暮らしと文化、そして異文化をみる視点について考えたいと思います。</p>
		
<p>本学名誉教授</p>	<p>国立民族学博物館外来研究員</p>	
<p>日本文学 (3) 日本近現代文学研究Ⅰ 日本近現代文学研究Ⅱ</p> <p>人生を切り取る「文学」 『そのだシニ専』で「文学」に触れ、眉根にしわを寄せ、涙腺をゆるめ、そしてうなずく刻を楽しんで下さい。</p>	<p>アジア太平洋文化論 (後期)</p> <p>右欄に記載しています。</p>	

情報学科

<p>上相 英之</p>	<p>小田桐 良一</p>	<p>垣東 弘一</p>
		
<p>本学非常勤講師</p>	<p>本学教授</p>	<p>本学教授</p>
<p>課題研究</p>	<p>応用情報、情報特論 (前期) プログラミング (後期)</p>	<p>基礎情報 (前期) ICTリーダー技法 (後期)</p>
<p>授業では画像処理を学んでもらい、最終的には持参してもらった写真に処理を施し、アルバムにすることを目標としています。 コンピュータとデジカメの普及によって画像処理は決してプロのための技術ではなくなっています。この機会に是非習得していただきたいと思えます。</p>	<p>応用情報の前期を担当しています小田桐良一です。 授業では、PowerPointを用いた口頭発表を前提としたスライド作成や、大規模なデータを効率よく管理するデータベースの構築や検索の仕組みといった分野の実習を行います。</p>	<p>P8に記載しています。</p>

情 報 学 科		
清水 五男	野口 聡	堀田 博史
		
本学非常勤講師	本学非常勤講師	本 学 教 授
プログラミング (前期) 基礎情報 (後期)	基礎演習 I (前期)、インター ネット活用 (前期)、基礎演習 II (後期)、応用情報 (後期)	情報持論 (前期) インターネット活用 (後期)
皆さんは、情報に関することを学ばれる機会は少なかったと思いますが、本学でパソコンが実用的に使えるように学習に励んでください。学習の上で大事なものは、基礎・基本をしっかりと身につけることです。情報教育センターを十分に活用し、情報化社会への対応力を育ててください。	P 8に記載しています。	学び続けることで、新たな興味が芽生えます。一緒に学び続けましょう。よろしくお願いいたします。
山本 恒 (ひさし)	植田 みどり	辻井 美奈
		
本学名誉教授	情報教育センターTA	情報教育センターTA
応用演習 I、応用演習 II	情報特論、課題研究	基礎演習 I、応用演習 I
学びは人生を豊かにします。特に自ら考えながら試行錯誤を繰り返して得た知見は、いろんな場面で応用できる生きたものになります。また、せっかく共に学んでいるのですから、共に高まろうとする学び方も大切です。	TAの植田です。微力ではありますが皆様と一緒に授業に取り組み、多くのことを学べるようにサポートを頑張りますので、よろしくお願いいたします。	はじめまして。TAの辻井です。皆さんと一緒に楽しく学習したいと思っています。しっかりサポートできるよう頑張ります。これからよろしくお願いいたします。

情報学科

堀越 直穂



情報教育センターTA

基礎情報（前期）、課題研究
インターネット活用（前期）
プログラミング（1）

パソコンを使うのが楽しいと思
っていただけるよう頑張ります
ので、一年間よろしくお願ひ致
します。

【垣東 弘一先生メッセージ】

社会はもとより家庭や生活において情報通信ネットワークはなくてはならないものになりました。この情報化社会において、私たちはコンピュータの正しい知識と操作を行うことが必須となっていました。これからパソコンの基礎から応用までしっかりと学習していただき、パソコンを使ったより充実した生活が送れるようになっていただきたいと思います。難しい内容もあるかと思いますが、一緒に最後まで頑張っていきましょう！

【野口 聡先生メッセージ】

受講する方の中には、コンピュータを使ってみたい、でも使えないという人もいます。私の授業では、コンピュータを使えない人でも、楽しんで学ぶようなデザインにしています。すぐにコンピュータが使えるようになるわけではないですが、少しずつ慣れていきましょう。よろしくお願ひ致します。

《情報誌への投稿のお願い》

「けやき便り」編集クラブでは皆さんからの投稿や情報提供をお待ちしています。内容については以下のような事項で、写真やイラストなどを含めて頂いても結構です。

- ・各クラスや学科コースの特別授業や行事、懇親会などの紹介
- ・各クラブの紹介や活動内容について
- ・「読者の広場」への投稿
俳句、短歌、川柳、絵、書、イラスト、クラブ新設呼びかけなど
- ・自由投稿

旅行記、ボランティア活動、趣味や個人の研究テーマなどの紹介

投稿は2号館1階の総合生涯学習センターに設置の「けやき便り」投稿箱あるいは下記のメールアドレスに作品などを添付して送付ください。

ttarui@mx5.canvas.ne.jp

尚、投稿された原稿は、誌面の都合により変更・修正する場合や編集会議の審議により掲載できない場合（宗教・政治に関するものや公序良俗に反するものなど）がありますのでご了承ください。
（「けやき便り」編集クラブ）

総合生涯学習センターからのお知らせ

☆平成27年度スタッフ紹介



よろしくお願いいたします。

所長 木村保司
 榘井 かず美・牧野 光江
 大野 明子 (おおの めいこ 学生課より異動)
 占野 薫 (しめの かおる)
 *細木祐子はスポーツ振興センターへ異動、
 宇野英里子・堀川由貴は退職いたしました。

☆レントゲン受検料の返金について

今年度初めて、「全員授業料とともに一旦レントゲン受検料も振り込んでいただき、他所で受検された方には受検料 700 円をお返す」という方法を取りました。

他所での受検結果の提出期限である5月30日を待っての経理処理となりますので、返金対象者のみなさまにはしばらくお待ちいただくことになりました。

返金の準備が整い次第、当センターホームページ及び掲示板にてお知らせいたしますので、よろしくお願いいたします。

☆クラス委員会について

各クラスの委員が決まりましたので、今年度第1回合同クラス委員会を開催します。万障お繰り合わせの上ご参集下さい。

日時：6月24日(水) 14:40~16:00

場所：掲示板にて連絡いたします。

☆質問票について

5月13日より、総合生涯学習センター前に「シニア専修コース質問票」の用紙を掲示していますのでご利用下さい。

授業中質問できなかったことや、どこへ尋ねたらよいかわからないことなど、センターが中継いたします。必ず回答したいと思いますので、記名の上総合生涯学習センターへご提出下さい。

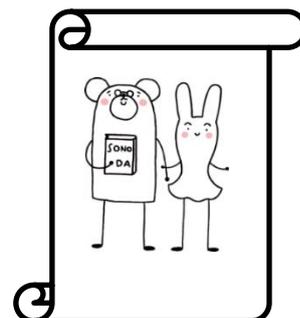
☆学内施設について

本学は昨年創立50周年を迎えました。建物も古く、バリアフリーではない部分が大半です。順次改修を行うとのことです。シニアのみなさまには階段・机・椅子等ご不便をおかけしますが、可能な限り教室変更などで対応いたしますのでご了承下さい。

なお、1号館のトイレは夏季休暇中に洋式に改修されるそうです。

☆その他

- ・学内では必ず名札を着用して下さい。
- ・掲示板は毎回確認して下さい。
- ・研究生の方は、総合生涯学習センターにある個人ファイルを時々確認しに来て下さい。
(全員に配布物がある場合は、センター事務室の外に並べます。)
- ・26年度卒業式記念写真の印刷が遅れておりますが、ただいま準備中です。もうしばらくお待ち下さい。



3月13日（金）平成26年度シニア専修コース卒業式が行われました

午後1時から富永学長をはじめご来賓の方々のご臨席を頂き、AVホール（3号館図書館2階）で執り行われ、富永学長から卒業証書が卒業生一人一人に授与されました。

卒業生は、文学歴史学科…28名、国際文化学科…11名、情報学科…6名でした。



卒業式に際してお祝いの言葉を述べられる富永学長

卒業式風景



卒業式で挨拶をされる木村総合生涯学習センター所長



けやきコーラス部は歌でお祝い



卒業生と在校生の皆様方で式場は超満員

4月10日（金）平成27年度シニア専修コース入学式が行われました

午後2時から一谷理事長をはじめご来賓の方々のご臨席を頂き、講堂（1号館4階）で執り行われ、川島新学長が講義で出席できないため、入学許可証は木村総合生涯学習センター所長が授与されました。

新入生は、文学歴史学科…20名、国際文化学科…26名、情報学科…20名です。



入学のお祝いの言葉を述べられる一谷理事長

木村所長から入学許可証を授与される新入生代表



文学歴史学科 秋山さん



国際文化学科 安随さん



情報学科 岡崎さん



会場での新入生と在校生



クラブ紹介 コーラス部



クラブ紹介「けやき便り」編集クラブ



クラブ紹介 写真倶楽部



クラブ紹介 ITを楽しむ会、
テニス同好会、遊歩クラブ



クラブ紹介 カラオケクラブ

平成27年度新入生誌上座談会

これから3年間共に楽しく学びましょう！

シニア専修コースによろこそ！「けやき便り」編集クラブでは、新入生の方(6名)の入学に向けての動機、感想などを、アンケート形式で集約し、「誌上座談会」としてまとめました。

《参加者》

秋山 典俊(文歴) 岡田久美子(国際) 岡田 真人(情報)
柳川 寛雄(文歴) 眞鍋 幸裕(国際) 長原 洋一(情報)

<入学した動機について>

秋山 団塊世代の一人として、古いものを捨て、最新技術を善として会社生活を送っていましたが、リタイア以後、日本は元来どのような国であったかに興味を持ったので、古代から中世に生きた人々の営み、文化について学んでいきたいと思いました。

柳川 生涯学習講座に参加した折に頂いた「シニア専修コース」の募集案内を見て決めました。3年間の学習課程であること、選択講座などがあることが魅力でした。

岡田(国) 昨年度は1年間生涯学習講座を受講しました。その関係でシニア専修コースを知り、以前から自分の知識を深めて向上したいと思っていたので入学しました。

眞鍋 昨年、仕事が終わり、第二の人生も学ぶことから始めたいと考えていました。シニア専修コースを園田女子大のHPで知り、お試しの授業を受け、楽しそうなので決めました。

岡田(情) 西宮在住で家が近くて通学しやすいこと、受けてみたい講座があったことです。

長原 不規則なライフスタイルに終止符を打ち、よりアカデミックな生活をと、この年になって思い立ちました。出来ることならば私にとって全く未知のITに挑戦したかったので、他校(シニア)ではクラブ活動としては有るが、系統的に勉強する所は少なく、園田シニアを選択させていただきました。

<ご家族の反応について>

岡田(国) 主人も以前からシニア専修コースに関心をもっていましたので、私が入学する事に賛成してくれました。

岡田(情) 夫婦共々受講に興味があり、いろいろ検討した結果、妻は国際文化学科、私は情報学科に入ることにしました。

秋山 家に居ると邪魔になるので、大いに賛成してくれています。

長原 大変喜んでおりますし、家内も私に刺激され、近所のパソコン教室に通うようになりました。

柳川 家に帰って、講座内容などの話をするので、楽しみにしているようです。

眞鍋 子供からは、この年齢で勉強を始めることは立派だと、妻からは計画的に時間を使い、新しい事を学ぶのは良いことだと言われています。

<やりたいこと、挑戦されたいこと>

岡田(情) パソコンを使いこなす知識は、仕事に必要な事柄を部分的につまみ食いした程度でしかなく、これからは系統的・専門的な勉強をさせていただいて、それを何らかの形で社会に還元できればいいなあと思っています。

眞鍋 知識を増やし、人として成長するとともに、友人を増やし楽しく過ごしたいです。また、クラス委員として楽しいクラス作りを目指して頑張っていきたいと思っています。

柳川 何事も継続が一番と考えています。

秋山 現在参加しているボランティア活動を続ける予定です。

長原 出来れば地域活動で、私のようなパソコンに縁のなかった方々に教えるのではなく、一緒に楽しみながら初歩の勉強を行いたいと思っています。

岡田(国) 課外授業で今まで知らなかった海外の食文化などを勉強することを楽しみにしています。

<学園生活を始められての印象は>

長原 40年ぶりの学園生活、新鮮でもあり、自分の頭の老化をつくづく感じますし、定年後は車もありますが、電車に乗ることも少なく、それなりに通学を楽しんでいます。

岡田(国) クラスの自己紹介で同級生の方のいろいろな体験、趣味、エピソードを聞いただけで、感心したり、身につくこともありました。クラスのつながりを大切にしたいと思います。

柳川 正門からの「けやき通り？」が気に入っています。若返った気がします(まだ若いですが)。家からの往復も大変ですが、電車の時間を気にする生活も楽しみです。

岡田(情) 孫の世代と同じ教室を使ったり、学食で肩を並べたりするのは、かなり刺激的な経験で、なかなか得難い経験だと思います。

秋山 先生方の講義内容が、大学並みのハイレベルで熱のこもった講義をされているので本コースに入学してよかったと感じています。

眞鍋 学園全体、いい雰囲気だと感じます。クラスもいろいろな経験をした方がおられ、これからの楽しみです。

<授業やクラブ活動などについて>

柳川 まず1年間、休まずに授業に参加することを目標にしています。少し難しい学習内容もありますが、とにかく努力あるのみ。慣れればクラブ活動も考えたいと思っています。

長原 なかなか授業についていくことに必死で、現在の所まったく余裕がないですが、パソコンにドブプリでは頭がパニックになるので、気分転換に写真倶楽部と遊歩クラブに入部しました。

岡田(情) 先生の授業は分かりやすい説明で、概ね満足していますが、私自身の頭脳と身体能力の劣化は如何ともし難く、3年間の勉学に耐えられるのかと心配ではあります。クラブ活

動は学園生活に慣れた頃に検討しようと思っています。

秋山 クラブ活動についても、友達をつくる意味で参加を検討したいと思います。

岡田(国) 先生の授業内容もよく分かり、楽しいです。学校生活にも慣れてきて、各クラブ活動などを見学してから入部を考えたいと思います。

眞鍋 授業内容、先生も良く、分かりやすく、楽しい授業だと思います。クラブ活動はテニスと遊歩クラブに入りましたが、各クラブのお試し入部制度を行っては如何でしょうか。

<先輩たちや総合生涯学習センターなどへの要望について>

柳川 これだけ多くの方が、参加されていることを改めて知りました。先輩諸氏に負けず、私も頑張りたいと思いました。

秋山 普通、大学では見られない「お試し期間」があることは、親切で良いシステムだと思いますが、期間は1週間位でいいのではないのでしょうか。

岡田(国) 自分の学科のクラスの交流をスタートしたばかりなので、これからは学科を問わず、先輩達と親睦できる学校行事や他学科の授業に参加できる機会を増やしてもらいたいです。

長原 まだ決定ではありませんが、我々の勉強会が発足したら、先輩の方々に1ヶ月に一回ぐらい、指導者として、ご教授願えればと思います。

眞鍋 新入生は友人もおらず、最初が一番不安な時であるので、円滑に馴染んでいけるような行事などの計画をお願いいたします。

岡田(情) シニアも学内 Wi-Fi の利用が出来るようにして頂きたいことと、図書館蔵書をネットで借り入れ予約をする場合、家のパソコンで出来るようにして頂きたいと思います。先輩方への要望としては、年に1~2回程度、「新入生歓迎会」以外に全学年生による交流会があれば良いと思います。

(まとめ:「けやき便り」編集クラブ 金森)

シニア専修コース誕生！ そして研究生へ

研究生(1期生) 勝見 彦義

それは、平成12年の9月。私達(鶴野氏、松本氏、間島氏、石田氏、勝見)は、当時、阪神シニアカレッジの1期生で、卒業期の4年でした。

独立学舎のない阪神シニアカレッジでは、講義が終われば、すぐに教室から出なければならぬ状態でした。そこで、仲間意識や連帯感を深めようと、入学した平成9年の1年生時代に、「歴史探訪クラブ」を作ろうとこの5人が中心となって結成。在学中、近畿各地を歩き、趣味や友好を深めておりました。

そして、卒業も近い平成12年の夏休み後の講義終了後、私達5名と歴探クラブ副会長の久保田氏(2期生)との昼食例会で、「このまま卒業して、別れ別れになってしまうのか。学習やクラブ活動などで、何年間も共に過ごしてきた仲なのに……」から、「もう一度ゼミなどで寄り合う場を作りたい……」の学習?の願いや気運が起こり、高まりだしました。

そして、会長の鶴野氏が所属する歴史関係団体での園田学園女子大の田辺真人教授(当時)を挙げられ、同副会長の松本氏も同じ高校卒の田辺氏を、更に間島氏や私も公民館講座などでお世話になっている同氏を推薦!久保田氏も。全員一致の田辺教授をこれからの相談相手になって戴くことに。年内にお会いして相談。ご多忙中の田辺教授とは、平成13年に、何度も時間を作って戴いて、私どもの実状とシニアとして、更なる学習意欲や活動の実態を聞いて戴きました。会合は、殆ど夕刻に。大学でも平成13年に「生涯学習センター」を開設。所長に田辺教授が!

好展開に備え、定員確保に私達は走りました。鶴野氏、松本氏、久保田氏は、阪神シニアカレッジへ出向いて。間島氏は、石田氏と川西市の文化団体レフネックの会員に。平成4年以来、県の放送大学に在籍している私は、阪神間に

在住する放大生の知己の人に呼びかけを続けました。所長として、また、パイプ役とし動かされた田辺教授。大学側も現在の制度やコース設定を検討。

かくして、平成14年、シニア専修コース文学歴史学科(3年制)が学園内に新設されて、私達は入学式に。

初年度の講義は、田辺教授の「日本史学」と影山教授(当時)の「日本文学」の2科目。平成15年には、国際交流学科が開設され、講義科目が大幅に増加し、以降も年ごとに増え続けていきました。

けやき便り(第11号)での田辺教授や松成元生涯学習センター所長の記事にあったように、3年制コースの創設でのご苦勞や入学生確保の問題が。また、卒業年度の論文の件では、記事の他に、我々は高齢者であり、この年齢にも関わらず、学習を続けようとする意欲や熱意を認めて欲しい……との要望で、この件は終結。そして、3年コース修了時に当たり、折角、慣れ親しんだ学園で、たった3年間だけでは惜しい……の心情や希望もあって、研究生コースを新設して戴き、毎年、研究生として更新を重ねて、現在に至っております。

また、毎年、校外学習として、年に1回程度、大学バスや電車利用で近府県の地を訪ねて現地学習が実施され、遠足気分新しい友との親しむ機会や場になっております。

文の結びとして

これまでご指導やお世話をして下さった教授の先生方や生涯学習センターの皆さん、ありがとうございました。高齢者として厚顔無礼な言動も許容して戴き、恐縮致しております。また、講義の教室では、教授の先生方、いつも紳士的で、しかも、優しく友好的に私どもに接して下さい、嬉しく思っております。

クラブ活動担当の皆さまへ

私どもが果たし得なかったクラブ活動(他のクラスとの交遊、自己の趣味の増進なども)をスタートされ、続けられている方々へ敬意と感謝申し上げ、発展を祈念します。

「園田・民博連携講座」に参加して

研究生 中村米三郎

私は、平成27年1月から2月にかけて開講された「園田・民博連携講座」に、昨年に続けて今年も参加した。この講座では、いろいろな国や地域に長期間滞在され、身をもって体験された経験・知識を国立民族学博物館（民博）の先生方と本学の関係教員から教わることになるが、今年で2回目になる。

変化する現代世界を、昨年6ヶ国、今年も6ヶ国の計12ヶ国の観光旅行では知りえない、興味深い貴重な実情を教わることができた。

グローバル化が急速に進む現在にあつて、少しでも外国の「生」の事情を知ることは、非常に重要だと思う。

6日間ある講義の内、5日間は本学で行われるが、1日は民博で行われた。講義に先立って開講式があり、河合本学名誉教授、久保民博副館長、総合生涯学習センターの榎井課長の挨拶があった。



開講式のあと丹羽准教授の講義が、午前はセミナー室で行われた。

午後の講義は、多くの時間、展示品を説明しながら行われて分かりやすかった。



6回目の最後の日、講義の一環として、ミニコンサート「ヨーロッパの歌」が本学音楽ホール（1号館4階）で行われ、辻本健市元本学教授が運営されているカンターチェ音楽園の先生方の素晴らしい歌と演奏が披露された。



6回にわたって行われた「園田・民博連携講座」は、開花亭で茶話会を兼ねた終業式を行い、意義深い集中講義は終わった。



この講座は、今回からシニア専修コースと公開講座を対象にした画期的な講座であった。

私は、来年もこの講座を受講したいと思う。

担当：河合利光（本学名誉教授）・池谷和信（国立民族学博物館教授）			
回	日程	講師	講義内容
1	1月30日	森 明子（民博教授）	ヨーロッパの移民（ドイツ）
2	2月6日	藤本透子（民博助教）	中央アジアの社会再編とイスラーム
3	2月13日 於：民博	丹羽典生（民博准教授）	オセアニアの紛争。民博の展示品見学
4	2月20日	三島禎子（民博准教授）	アフリカの布と承認： 植民地交易から現代のアフリカ・中国貿易まで
5	2月27日	伊藤敦規（民博助教）	米国先住民アートの知的財産問題
6	2月28日 午前	河合利光（本学名誉教授）	『バナナと日本人』以降のミンダナオ島
	2月28日 午後	辻本健市, 橋口杏美, 松本美菜子 (カンターチェ音楽園)	ヨーロッパの歌（ヨーロッパ諸国の民謡・歌曲実演を含む）

(注) 本稿は、園田学園女子大学生涯学習2014『旅とフィールドワーク4号』に掲載した「園田・民博連携講座に参加して」を加筆・修正したものである。

平成26年度国際文化学科2年

講義で学んだベトナムの料理を味わう

国際文化学科3年 樽井 敏彦

国際文化学科2年の必修科目である「アジア太平洋文化論」の後期授業では、吉本康子先生から東南アジアのベトナムを中心にその概要、ベトナム近現代、家族と親族集団、信仰と世界観などについて学びました。また、吉本先生の呼びかけで、最後の講義の後にベトナム料理を味わいながらベトナムの食文化を学ぶという食事会が催されることになりました。

2月2日(月)、最終講義を早目に終え、吉本先生の案内で阪急梅田駅から徒歩5分にあるベトナム料理店「BIA HOI(ビアホイ)」に向かいました。



店に入ると現地で買い付けたという家具や装飾品が店内に飾られ、まさにベトナムの大衆酒場の雰囲気。ベトナム産のビール333(バーバー)で乾杯後に料理が運ばれてきました。

ランチメニューはベトナムを代表するフォーやブン(ビーフン)といった麺料理が中心です。フォーはベトナムで最もポピュラーな麺類の一つで、米麺に牛骨から取ったスープをかけ、牛肉をのせたものを「フォー・ポー」、鶏スープをかけ鶏肉をのせたものが「フォー・ガー」といいます。好みによってこれに香草やもやしを加えて食べます。



ブンは米粉から作られますが、フォーよりも一般的に家庭で気軽に食べられる麺で、ここでは「ブンチャー」というハノイ名物のつけ麺で食べる料理でした。それぞれが好みの料理を注文しましたが、全般的には思ったよりも辛くはなくあっさりとした味との声が多かったようです。食後はチュエと呼ばれるベトナムのデザートを食べ放題。各種のフルーツ、白玉、寒天、タピオカなどを茶碗に入れ、マンゴーミルクやココナッツミルクなどをかけて食べます。

ベトナム料理は初めてという人もいましたが、みんなでワイワイガヤガヤと楽しい課外授業になりました。



吉本先生どうもありがとうございました。

文学歴史学科 3 年卒業旅行

研究生 橋本 秀明

去る平成 27 年 3 月 13 日に平成 26 年度の卒業式があり、文学歴史学科 28 名全員無事卒業。筆者も含め、おめでとうといいたい。その後、茶話会を実施。22 名が参加。今後の進む道を各自話して戴き、殆どの方が研究科に残るとのこと。続いて、卒業旅行実行委員から旅行の詳細な案内があった。

3 月 20 日(金)、日帰り卒業旅行の行先は京都。「京都水族館」見学。近くの「緑の館」での会食・歓談。あとは自由行動と有意義な一日。

詳細なタイムスケジュールのもと、JR 京都に 10:43 到着。タクシー組と歩き組に分かれ「水族館」へ。大学の学生証を見せれば入場料 500 円引き。参加者 20 名全員、「水族館」は初めて。規模は大阪「海遊館」の方が大きい。イルカショーは、「和歌山アドベンチャーワールド」のような派手さはなかった。



「水族館」見学後、「緑の館」へ移動して会食。1,500 円の和食ランチ。まずまずの料理だった。食後、実行委員からの楽しいゲーム。

まず、漢字面白パズル。“努努”を何と読むか。全員読めず。解答は“ゆめゆめ”。意味はこの記事を読んでいるあなた、辞書で調べましょう。次に日本の旧国名を当てるクイズ。“備”の付く国名を。正解は“備前”“備中”“備後”。

続いて、ビンゴゲーム。通常このゲームは 5×5 の数字カードを用いて行うが、学習を兼ねたビンゴゲームは、自分たちで 4×4 のマス目に日本の旧国名を埋めていくというもの。藩名を旧国名とするものも多くいたのでは。『旧国名と都道府県名』の資料を受け取り、マス目を埋めて開始。景品は全員に。ビンゴゲームに付きもの、早くビンゴになるひと、何時までもリーチにならないひと。大変楽しいひと時だった。最初のビンゴ 2 名。筆者もそのひとり。

歓談後、解散。



卒業旅行実行委員の渭東さん・國時さん・古賀さん・田上さん・安永さん、皆を代表して楽しい時間を過ごさせて戴き、本当にありがとうございました。特にゲームを考えてくださった渭東さん、重ね重ねありがとう。

平成 27 年 4 月 9 日 記

<追記>けやき写真倶楽部の 6 名は、龍谷大学建造物の重要文化財を撮影に。

国際文化学科3年間を終えて

研究生 村井 豊治

桜の季節が待ち遠しい、まだ肌寒い3月13日、3年という長い就学の時間を終えてシニア専修コースの卒業式を迎えました。平成24年度入学当初は、国際文化学科入学者は17名を数えていましたが、それぞれの事情もあり卒業を迎えた者は11名でした。

卒業式は、開会の言葉のあと、卒業生全員に卒業証書が授与され、一人一人がやや緊張した態度で登壇し、学長から卒業証書を授与されました。学長式辞、理事長祝辞が続き、大学歌等のコーラスがあり、厳かな雰囲気滞りなく閉式となりました。引き続き、学科ごとに晴れ晴れとした、笑顔いっぱいの記念撮影が行われ、別れを告げました。



そのあと、わが国際文化学科卒業生全員で3年間ご指導いただいた河合先生を囲み、「かごの屋」で別れの宴を催しました。にぎやかな楽しい時間を過ごしてきた仲間たちと2時間ばかり思い出話に花を咲かせ、またほぼ全員が研究生として残ることを確認し、同窓の絆を深めていくことを約束して、お開きとなりました。

思えば、退職後、先輩のアドバイスもあり、健康第一とスポーツジムで体を鍛えることを続けておりました。3年前に頭も併せて鍛えないといけないと思立ち、園田学園シニア専修コ

ース国際文化学科を選択いたしました。3年間の学園生活は思いのほか短く感じられる充実した時間でした。

文化人類学入門の授業の中で河合先生から紹介される書籍を図書館で探して、本の匂いに浸りながら、久しぶりに味わう新鮮な気持ちで読んだことも懐かしく思い出します。

入門書に「文化人類学はあなたを幸せにします。世界を良いところにします」と書かれていたことがすごく印象に残っています。久しぶりに学問に触れたことで「人間一生勉強」ということを改めて思い起こさせてくれました。

3年生の国際総合研究では、各人が選んだテーマでレポートを提出し、「旅とフィールドワーク」という雑誌として記録に残せたことは3年間の一番の思い出となりました。河合先生には、年度途中から白内障で視力が弱っておられたにもかかわらず、われわれが提出した拙いレポートを添削し、完成までご指導いただいたことは感謝に堪えません。本当にありがとうございました。



卒業式での学園理事長がユーモアに富んだ祝辞で、「何を研究されているか分かりませんが、研究生として残られる方が多い」と述べられていました。小生も今後しばらくは研究生として残り、何かを研究？する、少しわくわくするような満たされた時間を過ごしたいと思います。

情報学科卒業記念ランチ会

研究生 野間 淑美

入学の時には13人だったのに、卒業時には6人になっていました～！（半分以下とは残念至極ですが、シニアのみなさん、それぞれ異なる事情がおありだったので、仕方ないですね）

振り返ってみれば、あっという間の3年間。入学当初に思い描いていたような力がついたのかどうか・・・はともかく、卒業の時がきてしまいました。せつかく3年間一緒に学んだ仲間と、卒業記念お別れランチをしようと言うことになりました。



場所は、神戸は北野にあるフレンチレストラン。同級生の娘婿の方がパティシエをされているとかで、そこでちょっと豪華目のランチをとということに。

私たちは、入学した少しあとくらいから、学園前のレストラン「カウボーイ家族」や「かごの屋」で、懇親会やお茶会を何度かしてきましたが、学校を離れてイベントを開催するのは、これが最初で最後。思い出に残るようにと、春節祭の開催時期を選びました。

当日は、午前11時に三宮で待ち合わせ、ゆっくり歩いて北野に向かいました。聞けば、お店の開店は12時からとかで、お店が開くまで北野界限をウインドウショッピング。アクセサリーやら陶器のお店を冷やかして時間待ち。待つほどに料理への期待は高まっていったのです。

堂々たる洋館のひとつが、12時前に門扉を開き、私たちを招き入れてくれました。予想を超えるグレード、お店の名前は「グラシアニ」。

入口を入った待合で、手荷物やコートを預かっていただき、2階の部屋へ。

私たちだけの個室が用意され、陽がさんさんとあたる明るい部屋に重厚なステンドグラスが。

まずは飲み物の注文ですが、お料理にあうワインは、高くて手がでず・・・、女性はお水で我慢。実に残念。

目にも鮮やかで、口に入れるには勿体ないほどの美しい料理を頂き、フレンチを堪能しました。帰りには、娘婿殿手作りのケーキをお土産に頂き、一同感激！これがまたとても美味しくて、さすが～！北野のフレンチのパティシエ・・・と納得。

さらには、婿殿に門まで送って頂き記念撮影。



今後、パティシエの義父母以外は、多分、夜のディナーには来れないであろうレストランに名残を惜しみつつ、おいとま。良い思い出となりました。そのあとは、義父母の同級生と別れ、写真倶楽部に所属する女性3人で、南京町まで春節祭のざわめきの中を撮影に。観光の人々で賑わう南京町を撮り歩き、これも、思い出に残るシーンとなりました。



「国際文化学科1年生懇親会」を実施

国際文化学科1年 櫻井 秀也

4月27日(月)午後の講義を終えたあと、午後3時より、「かごの屋」で初めての懇親会を実施しました。新「国際文化1年生」は総勢25名(男性16名、女性9名)。今回は、クラス委員の真鍋さんの呼びかけで有志を募って開催、25名中16名が参加しました(うち女性2名)。



真鍋クラス委員のご挨拶、そして岡田クラス委員の乾杯の音頭でのどを潤すと、さっそく(酔っぱらう前に)参加者全員で記念撮影。そのあとは、お酒が飲める方は「飲み放題コース」ということもあり、両隣、お向かいの方々との会話のテンションもあがります。



国際文化学科では、すでにそれまでの講義後に、4回に分けて一人約2分ずつの自己紹介を済ませており、仕事をリタイアされたばかりの方、シニアカレッジなどで勉強を重ねておられる方などなど、おたがいに勉強を始めた動機や

趣味について理解を深めつつあります。今回はさらに新しい仲間と打ちとけることができる絶好の機会となりました。



最後まで和気あいあい、次回は7月に、の声もある中、午後5時半にお開き。これからの3年間、新しい仲間と楽しく学べそうな予感を与えてくれる有意義な会となりました。



平成27年度「情報学科新入生歓迎会・懇親会」に参加して

情報学科1年 岡田 真人



5月11日(月)16時30分、5号館2階「チャティ」にて、2年生(17名参加、以下同じ)、3年生(8名)、研究生(4名)の皆さまに主催していただき、我々1年生(17名)の歓迎会及び全学年の懇親会が行われました。

来賓として情報教育センター所長の難波宏司先生、山本恒先生、野口聡先生、総合生涯学習センターから榊井課長、大野さんの5名がご出席くださいました。お手数をお掛けしましたこと、新入生一同この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



2年生の中林さんの司会のもと、ご来賓の皆さまのご祝辞、3年生の渡邊さんの乾杯のご発声をいただき、そのあとは歓談、飲食。大学生協さんをお願いして作っていただいたオードブルを食べ、ビール、日本酒、焼酎、ワインを呑んで、同じテーブルについた両隣

お向かいの方々と歓談しつつ、他学年の情報をこの時とばかりに収集しました。

入学したての我々1年生の最大の関心事は、これから3年間の長きにわたって勉学について行けるかどうか、体力はもつのか、知能に余力は有りや無しやなのですが、会場での諸先輩方の聡明深刺さを間近に見させていただき、このご様子を見習えば何とかなるのでは、という希望と自信をお分けいただいたような気がしました

そうこうするうち、あっという間に皆さまとのお別れの時間が来てしまいました。3年生の徳田さんの閉会の辞をいただきまして本日の宴は18時30分に無事終了。



まだ1年生同士の交流も十分ではない状態ではありますが、交友会委員、クラス委員の選出もできましたので、これから徐々に結束を固め、今年度下半期あたりから他学年の諸先輩方との交流が深められれば、と念願しております。今後とも宜しくお付き合いの程をお願い致します。「歓迎会」での身に余るご歓待、重ねて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

楽しいマジックで社会に貢献したい

今回、登場するのは国際文化学科3年の落田義隆さん。趣味でマジックを学ばれており、親睦会や交流会などで披露したり、ボランティア活動にも楽しく取り組まれています。

園田シニアの人間探究3

—マジックに取り組まれたきっかけは

平成22年の春、神戸市シルバーカレッジ(KSC)に入学し、10月に行われた学園祭で「マジック同好会」の見事なパフォーマンスに触れ、66歳の小さな胸がときめいた。すぐに同好会への入部を決意した。

—マジックの活動内容について

現在、卒業生が主なメンバーである「KSCマジッククラブ(会員84名)」に所属している。今年4月から主幹事に任命され、クラブ運営のお手伝いもしている。活動としては、神戸市北区の「しあわせの村」内の研修館で、月2回の例会にて練習。また、毎年9月に一泊研修、11月には「マジックの祭典」として県民会館等で発表会が開催される。クラブとしてのボランティア活動は70回前後。神戸市内の高齢者・障害者施設、病院、幼稚園、保育所などを訪問しているが、都合のつくかぎり参加している。

—今までの一番の思い出は

しあわせの村にある「リハビリセンター神戸」でのボランティア活動のデビューで、約20名の観衆から拍手をもらったこと。私の演技でも喜んでもらえるんだ！と胸が一杯になった。

また、KSCのグループ学習で韓国の大邱(テグ)市を訪れ、同市寿城(スソソ)区シニアクラブとの交流会にてマジックを披露し、海外デビューしたことも印象に残っている。

—活動で苦労されている点は

我々が学んでいるマジックには、カード、ロープ、シルクハンカチ、花を教材とする演目がある。いずれも手指先、リズム感、しゃべくり

などが要求されるが、なかなか思いどおりにいかない。もっとしゃべくりもうまくなりたい。

—マジックの楽しいところは

例会時の練習で、先生の熱心な指導にもかかわらず、すぐには呑み込めず、仲間と「ああでもないこうでもない」と言いつつ、マジックのテクニックが習得できたときの満足感。更に習得した演目をボランティア活動や懇親会などで披露し、受け入れられたときは本当に楽しい。

—家族や周りの人たちの反応は

マジックを学び始めたときは、孫(当時小、中学生)、家内たちは興味津々で、新しい演目の披露を楽しみにしてくれたが、最近では関心も半減しているようで若干寂しい気分である。



—今後の夢や抱負について

「不思議でなければマジックでは無い」を原点に技能の研鑽に努める。「再び学んで、他のために」のボランティア精神を持って社会に貢献するとともに「奇術は、喜術なり」でマジックを楽しみ、他の人々をもっと楽しませたい。

<インタビューを終えて>

今や国際文化学科の親睦会や交流会には欠かせない存在の落田さん。入学した頃はうまくいかないこともあったが、日ごろの練習の成果で最近ではノーミスの演技が目立つ。新聞紙を細かく破り、気合いもろとも一瞬で元の姿に復元させる得意の演目には皆さんから驚嘆の拍手も！！今後も技能の向上に励み、園田シニアの仲間たちを大いに楽しませていただきたい。

(インタビュー 「けやき便り」編集クラブ 樽井)

身近な異文化に接して

国際文化学科3年 楊 錦華

40年余り前のことで恐縮だが、それほど陳腐な話でもないで続ける。香港からやってきた友人の家族を東京に迎えた時のことである。彼らはパックツアーに参加し、延泊して残ったの自由行動だった。いわゆる名所旧跡の類、例えば東京タワー、日比谷公園、皇居前広場・眼鏡橋、浅草観音・・・などはツアーの観光で既に見てきたという。そこで私が案内したのは銀座のデパート3軒と新橋、新宿の繁華街などである。



店頭のドア表示 (神戸・三宮)

確か新橋の「大和田」で昼食のうな重を食べていたときだった。インテリアの奥さんが悩んでいたようには見えなかったが、不意に質問してきた。「東京にはどうしてこんなに質屋さんが多いのか」と。答えあぐねて、返答に困った。

更に10年ほど遡って、私が就職で上京した東京オリンピック(1964年)のころは確かに町中に質屋がたくさんあった。腕時計、スーツは無論OK、学生服でも質入れできたものだった。しかしその後、まち金融のシステムが進化し、サラリーローンという消費者金融が台頭した。質屋の多くは返済期限がひと月先で、滞れば質草が流れ、そこには生々しい庶民の生活臭があった。給与明細など紙一枚で審査され、当初から分割返済もできたのがサラリーローンである。流れる質草がない代わりに、給与差し押さえという怖いモノが控えていた。サラリーローンに押されて、町の質屋の多くは廃業に追い込まれた。あたかも当時隆盛だった商業手形割引システムが今日では消滅したことに相似している。

「質屋はあまり見かけないけど、どうして」と逆に問い返した。「デパートの入り口、お店の入り口など、随所に『押』と書いてありましたよ。あれは質屋へ通じる入り口でしょ」。そうだったのだ、香港では「押」は抵当に入れることで、質屋の看板には「押」と書かれていたのだ。

「押」という字は、日本では借金の担保を押さえるとして使う場合もあるが、ドアのPushを意味し、香港の「推」にあたりと説明して納得してもらった。因みに「引」は「拉」と表す。近年では自動ドアの設置が多く、質屋も少なくなった。



質屋の大看板 (香港・九龍)

同じ漢字を使い、「同文」といわれながらも異なった意味で使われているケースがある。有馬温泉のとある温泉旅館に泊めた時、部屋は洋室で内風呂もついていた。しかし大浴場のほうが広々して露天風呂もあつてのんびりでき、男女別に分かれて水着の着用は要らないと説明した。ところが大浴場入り口の暖簾「男湯」・「女湯」を見たとき彼らは大笑いし、尻込みした。



温泉入口の暖簾 (神戸・北区)

中華料理のメニューで「○△湯」は食材の○△を煮込んだ「湯 (tong トン)」スープを表す。「男湯」や「女湯」の暖簾を見て、どんなスープを想像したことだろうか。

湯類		Soup		
Small Serves 1-3, Medium Serves 4-5, Large Serves 6-8				
Each Additional Person Add \$2.00				
		(S)	(M)	(L)
瑤柱海鮮湯	Dried Scallop w/ Seafood Soup	11.95	17.95	23.95
雞茸三鮮湯	Mashed Chicken & Shrimp w/ Egg White	6.95	10.95	13.95
鍋巴湯	Sizzling Rice Soup w/ Chicken & Shrimp (also Vegi)	6.95	10.95	13.95

湯・スープのメニュー (大阪民博展示物より)

香港の食事には、肉がなくても、魚がなくてもよいが、スープは欠かすことはできないという。事実、家庭で作るスープは100種類を下らない。それほどスープにこだわる食文化だ。因みに韓国料理でも「参鶏湯」のように「湯 (タン)」はスープを表す。

香港のレストランでメニューを見ると、「猪」(イノシシ)料理がたくさんある。これも誤解の一つで、「猪」とは日本でいう家畜の「豚」のことである。野生のイノシシは「野猪」といい、ついでに、「野菜」は野生の山菜を指す。そして、店やレストランの場所がどこそこの「地下」と書いてあっても、それは地下にあるわけではなく、地上にある。

話が食文化に及ぶと、味や味覚、食感の表現が気になる。日本には酸味、甘味、苦味、辛味、塩味に渋味と旨味がある。香港では対応して、酸、甜、苦、辣、咸、涩、そして旨味に相当する鮮味加わる。あっさり、こってり、水くさい、うまいなどの形容詞もある。ごちそうを口に入れた時や噛みしめた時の感覚を表すのに、日本語の擬声語は便利で表現が豊かだ。しかし、香港にはまた別の表現がある。例えば、豊水梨を噛んだ時の感覚を「爽 (song ソオン)」と表現し、富有柿ではそう言わない。もともと硬かった食材を軟らかく炊けば、それは「凜 (nam ナム)」といい、当初から柔らかいケーキには使わない。柔らかいが噛み切れないホルモンなど

は「齧 (ngan ンガン)」という。英語では多分chewyだろうが、チューインガムの口当たり感ではない。食文化の豊かさが感じられる表現である。

日本では魚をおろす、さばく、調理するといひ、鶏はつぶす、しめる、ひねるという。一般家庭では鶏をつぶすこともなくなり、まして豚や牛を屠ることなど一切ない。猟師が鉄砲で仕留めた獲物はすでに死んでいるので、殺すことなく「さばく」か「解体」する。日本では「殺す」など生々しい表現は決して使わず、上品で装飾的、かつ間接的に表現する。しかし、香港では言い換えなしで魚も鶏も、アヒルも豚も牛も、ズバリ「殺」か「割 (tong トーン)」とリアルに言う。これも繊細な日本文化との違いの一つであろう。

同じ漢字が違う意味に使われるのとは異なり、元は同じ字が別の書き方に簡略化している。台湾で使われている繁体字と大陸の簡体字、そして日本の当用漢字・新字体も似ていて異なる例は多く、戸惑うばかりである。そして簡体字の略し方はいろいろあるようだ。一例として、

- ①音で置き換える： 芸⇒艺； 戦闘⇒战斗、
- ②一部の形をとる： 術⇒朮； 業務⇒业务、
- ③字意から略する： 衆⇒众； 陰陽⇒阴阳、
- ④草書体からとる： 無⇒无； 頭髮⇒头发、
- ⑤偏旁などの簡略： 動⇒动； 觀覽⇒观览。

日本の新字体・略字と異なるものもある。例えば、対応 (對應・对应)、運動 (運動・运动)、図書館 (圖書館・图书馆)、カッコ内は繁体字と簡体字を示す。また、同じ字形ながら全く異なるものもある。「机」は機械の「機」、「叶」は「葉」の簡体字である。

このように身近にも文化の多様性が多く見られる。日中は一概に同文同種というには違いが多すぎるように思う。相互誤解が起こらぬよう注意したいものだ。

主人在宅ストレス症候群

情報学科3年 徳田 將之

こんな病名があるのをご存じだろうか？
最初は冗談のように言われていたのが、今では
医学界でも正式な病名というから驚いた。

定年退職後に外出もせず、一日中家でごろごろしていることで妻の体調が悪くなる、いわゆる心身症でその精神的なストレスからめまいが起きたり片頭痛や胃潰瘍にもなるという。

考えてみれば現役サラリーマンの平日は朝早くから家を出て帰宅は夜遅く、出張もあり休日にも接待ゴルフやらで家に居る時間は妻の方が圧倒的に多かった。その間の定年に至る40年ほどの長い時間に我が家(城)の実質的な主(あるじ)は妻になっていたのである。

確かにその妻からすれば定年退職した亭主に毎日昼間から家の中でごろごろされては目障りで、長い間くつろぎの空間として自分が占有していた居間で「おーい、お茶」やら「俺の昼飯は？」等の要求をされては、それに強いストレスがかかる、というのは想像に難くない。

しかし、妻のそれら昼のサービス？提供は給与や賞与が銀行口座に振り込まれていた時の「期間限定」で、稼ぎの無くなった定年後の亭主は手間ばかりかかる「粗大ゴミ」と言われては「俺は家族を養うため40年も会社で艱難辛苦を乗り越えて定年まで勤め上げ、取りあえず不自由のない生活ができているのは誰のおかげだ」と声を荒げたくもなるが、女は目の前の現実が全てである。

その厳しい現実を知ろうともせず、妻に退職前と同じようなサービス？の要求を会社の部下相手に言うような命令口調でしたり、家事分担にも理解を示さないでいるとやがて妻の離婚宣告になる、というのも強ち冗談ではないらしい。

ところで、「熟年離婚」という言葉が団塊の世代の定年前後によくメディアに取り上げられていたが、その昔、熟年の離婚といえは、晩年に

成功した男が老いた妻を捨て若い女に走るとい
うのが相場であった。しかし、今は反対に妻が
夫を捨てて出ていくケースが多いというから笑
いごとではない。

別に妻が若い男に走るというわけではなく、
とにかく目の前の不快な状況から逃がりたい、
というのが主な動機だそう。

そんなことが出来るもんか、とタカをくくっ
ていてはいけない。共働きも多かったこの時代
の女は自活力もあり年金分割請求の権利も保有
し、また現に高齢者がパートで働く気なら男よ
り女の方がはるかに仕事を見つけやすい世の中
でもあり、「熟年離婚」へのハードルは確実に低
くなっている。

もともと、強く自己主張が出来たり、とりあ
えずヒステリーを起こす妻はまだましいが、おと
なしく我慢強いタイプの妻からある日突然、「お
世話になりました」と寝耳に水の別れ話を出され
たら最早手遅れと聞くから身に覚えのある諸兄
にはご注意ください。

話は少し変わるが、40年程前の駆け出し社員
の頃、ある酒席で才色兼備の先輩が「女って損
だわ。会社って男社会で不公平だから、生まれ
変わるんだったら絶対男よね」と言っていた。

クリスマスケーキと言われたあの頃の適齢期
を少し過ぎていた(と思われる)その才媛はそ
れから数年後には寿退社したが、その後「熟年
離婚」したかどうかは知る由もない。「男女雇用
機会均等法」の施行(1986年)はそれから10年
余り後の話だから、彼女は少し早く生まれ過ぎ
たのかもしれない。

ある日、専業主婦だった家人に聞いてみた。

「生まれ変われるとしたら男と女とどっちが良
い?」「そりゃ女よ。男ってあなた見てると大変
そうじゃない」

なるほどそうなのか、と少し安心した。

「で、あなたはどなのよ?」と問い返された
ので、「そりゃ男さ」と答えたら、「ふーん・・・」
という冷めた反応だったが、

「懲りない男」と顔に書いてあった。

東南アジア4ヶ国を旅する②

研究生 十河 和夫

2014年7月21日～8月22日にかけて、東南アジア4ヶ国タイ、カンボジア、ベトナム、ラオスを周遊してきました。2012年、吉本先生のシニア専修コース「アジア太平洋文化論」で東南アジアを学び、自分の目で見てみたいと思い旅してきました。今号ではカンボジア、ベトナム、ラオスについて報告いたします。

3. カンボジア

カンボジアですが、カンボジアに行けば必ず行こうと決めていた観光地（こう呼んでいいのか躊躇しますが）がありました。一つは『僕たちは世界を変えることができない But, we wanna build a school in Canbojia』で書かれていたゴミ山です。プノンペンでもっとも貧しいものが住むというゴミ処理場です。しかし、一人で行くのは難しいからということで断念しました。中年バックパッカーはあきらめも大事です。遠くからちらっと見ることはできましたが。



キリング・フィールド

二つ目は、キリング・フィールドとトゥール・スレン残虐博物館ですが、こちらは行くことができました。キリング・フィールドとトゥール・スレン残虐博物館はポルポト政権の残虐さがよくわかる博物館でした。見終わって、少し気分が暗くなりました。でも、真実を見つめることは大事だと思います。

4. ベトナム

ベトナムは、吉本先生の講義で教わりました。54民族で構成される多民族国家であること。戦前、ベトナム独立運動を助けた東遊運動。中世に海洋国家のチャンパ王国があったことなどです。特に心を引かれたのはチャンパ王国でした。ベトナムに行くのならチャンパ遺跡に行こうと決心していました。

・ホーチミン

バックパッカーが集う、ブイビエン通りに宿泊しました。ここには、バックパッカーが求めるものが何でも揃っています。ゲストハウス、レストラン、ビヤバー、ランドリー、旅行会社。何でもある便利な地域です。有名なシンカフェもすぐ近くにあつて、ここで10\$の「メコンデルタツアー」を購入してミトに観光してきました。

・ダラット

ホーチミンから『浮雲』（林芙美子著）の舞台ダラットに寄りました。ホテル横の路地を降りていくと市場に出ます。この路地を下っていくのが楽しかったです。市場の前は広場になっていて、そこから「ローマの休日」に出てくるような階段があります。広場には屋台が並び、階段にも食べ物を売る屋台がいて、絵になる景色でした。軽井沢のような高原で、ベトナムでは人気がある観光地らしいです。気候も夜になると寒いくらい涼しくなります。林芙美子が気に入ったのは尾道と同じように坂が多い町だからだと思います。

・ニャチャン

ビーチが良かったです。ニャチャンだけでなくベトナムの海岸はどこも白い浜が広がっていて良かったです。浜辺へ行き日光浴をする、それだけで幸せな気分になりました。ここはロシア人が多かったです。看板もロシア文字が目につきました。ベトナム戦争時代からベトナムはロシアと仲が良く、中国とは面従腹背だったといひます。

ニャチャンはチャンパの南限の都市で、チャンパ遺跡「ポー・ナガル」があります。ポー・

ナガルとは女神の名前です。土着信仰の神ですが、ヒンズー教の影響も受けています。朝早く7時30分頃着いたのですが、すでに沢山の人に来ていました。観光客と地元の人が半々ぐらいでした。女神だけあつてか、地元の女の人が熱



ポ・ナガール

心に拜んでいました。沢木耕太郎はこう書いています。「そのひとつの暗い祠（ほくら）では、女神像の前で線香を焚き、一心に祈っている老婆がいて、ここが信仰の場として、いまも生きているのだということを伝えていた」。

この遺跡は今は滅びたチャン王によって建設されましたが、ジャワ軍によって破壊されました。この遺跡はチャンパ王国が滅亡した後もベトナムの女たちによって守られて来た貴重な遺跡です。

・ホイアン

チャンパ王国の聖地だった「ミーソン遺跡」に行ってきました。遺跡群は四方を山に囲まれ、聖



ミーソン遺跡

山がそびえる盆地の中央にあります。王と一体化したシヴァ神などを祀るためにレンガ作りの祠堂が多く建設されましたが、チャンパ王国が滅びた後は放置されて自然崩壊が進んでいました。接着剤を使わずに摺り合わせで造られたレンガ建築物。遺跡の壁面に彫られた女神像。それらの遺跡が崩壊してあちこちに石の彫像が散在しています。自然崩壊だけでなく、ベトナム戦争でも被害を受けています。解放軍が基地として使用したため、アメリカ軍の空爆にあったのです。そのため崩壊が進みましたが、現在少しずつ修復し整備されています。

山間の盆地に朽ち果てようとしていた遺跡でしたが、900年間チャンパ王国の聖地であり続けたミーソンの雰囲気は十分に感じました。

ホイアンではもう一つ行きたいところがありました。沢木耕太郎の『ヴェトナム縦断』に載っていた日本人の墓です。彼が書いてあるとおり迷いましたが、執念で見つけました。「確かにその墓はひとつだけぽつんとあつた。しかし、そこは寂しさを少しも感じさせない明るさがあった。水田は広々としており、取り囲んでいるのは緑の稲

なのだ。その緑の稲は強い日差しを浴びて美しく輝いている。ふと、こんな墓ならいいなと思った」。



水田の中にある日本人の墓

墓は、日本の方向に向けて建てられています。ベトナム戦争の時には戦場になったようですが、今も地元の人が守ってくれています。ありがたいことです。

・ダナン

ダナンでは何をおいても「チャム博物館」を見学すべきです。チャンパ遺跡調査の際に発見された遺物の多くがここに集められています。建物の装飾に好んで彫られた女神像。躍動感あふれるシヴァ

神の石像などが展示されています。窓も陳列ケースもないフランス植民地スタイ



チャム博物館

ルの吹きさらしの空間の中に、石像は床上に設置され、壁面に彫られた女神像は砂岩の壁面ごとコンクリートの壁にはめ込まれています。すぐに手の届くところでまじまじと見ることが出来ます。触れてしまいたい欲求を止めることに

苦労しました。それだけ無造作に置かれているのです。

チャンパの彫刻の特徴は、細く切れ長の目、厚い唇が作り出す土着的な表情、豊かな胸部。旅行ガイドにはこう書いてあります「エロチックという言葉の響きとは微妙にニュアンスの異なる豊かな胸部、例えていえば、幼児が時折見せる妙に色っぽいしぐさ、チャンパ彫刻の最大の魅力なのである」。

ダナンからフエまでは、列車に乗りました。20分も走ると、ハイヴァン峠に差し掛かかりました。ダナンとフエの間にある峠で海拔496m。あまり高くはありませんが、線路は絶壁の上に作られているので、眼下に真っ青な南シナ海が飛び込んできます。列車は山に沿って曲がりくねって進み何回かトンネルもくぐります。トンネルに入っても車内電灯は灯らないので車内は暗くなります。東南アジア最長の全長6.3kmのトンネル内では、5分ぐらい暗闇でしたが静けさの中に緊張感が漂っていました。

トンネルと見晴らしのいい景色がしばらく続いていました。というのも列車の速度が自転車並みの速度なのです。馬力が無いというか、観光客の眼を楽しませる為か、とにかく遅いのです。

・フエ

ベトナム最後の王朝の都が置かれた町です。町には王宮があり、郊外にも3カ所の帝廟があります。ツアーで回ったのですが、どれも立派でした。が、どれも同じに見えて、印象に残るものはありませんでした。ここでは、どうしてもベトナム



焼身自殺の僧

ム戦争で焼身自殺した、僧が在籍した寺を見たので行ってきました。テイエンムーラ寺に僧がサイゴンまで乗って行ったオースチンを

見ることが出来ました。

フエは17世紀までチャンパ王国の都でした。海外貿易で栄えた国で日本とも貿易をしていました。ホイアンには日本人町もあるほど、交易は盛んだったようです。チャンパはベトナムに滅ぼされましたが、その子孫は少数民族のチャム族となって、今は主にニャチャン付近に住んでいます。

5. ラオス

ラオスは通過するだけでした。しかし、ラオスについては公開講座・高先生の「名画は世界を映し出す～映画・映像でたどる平和と人権～」で「グラン・トリノ」を学んだことを書きます。ラオスの現状を知って欲しいからです。

妻を亡くした主人公コワルスキーの隣に引越してきたのがモン族の家族でした。実は前にこの映画を観ていたのですが、その時はモン族？ ぐらいにしか感じなかったのです。が、この設定、イーストウッドの深い思いがあった事をこの講座で学びました。この映画のモン族はラオスの山岳民族という設定です。ベトナム戦争の時、ベトナム援助のルートであった、ホーチミンルートを潰すためモン族は、アメリカに無理やり協力させられていたのです。アメリカはベトナム戦争の敗戦間際、ダナンから撤退する時に南ベトナム軍を置き去りにしています。アメリカがベトナム戦争に負けインドシナから撤退する時もモン族を置いてけぼりにしました。ラオスは共産軍に支配され、モン族は反体制分子として弾圧されて、多くの人がベトナム軍主導の掃討作戦で殺されています。そのため、命からがらアメリカに逃げてきたのがアメリカ在住のモン族だったのです。

この映画を観てから、ラオスの国についての見方が変わりました。ラオスはメコン圏の中でも経済発展が遅れています。東西回廊の中継拠点の都市サバナケットですが、日本の田舎町程度の都市です。人の往来も少なく、落ち着いた町とでもいえるでしょう。

ラオスからタイへの国境越えは、まるで十三

から梅田へ行くために淀川を越えるような気楽さでした。サバナケットのバスステーションから定期バスが出ています。運賃400円で、乗車してくる人も地元の人ばかりで通勤バスに乗っているような感覚でした。国境のイミグレーションの検査も緩やかでした。

タイの国境の町ムクダーハンに到着した時、街の景色が豊かだと実感しました。それだけ、タイとラオスは経済格差があるということです。

6. 最後に

園田学園シニア専修コースで多くのことを学ばせてもらいました。今回の旅行も学園で学んだことが役に立ちました。シニアの旅行は物見遊山だけの旅ではありません。そこに、何らかの発見があり見つける旅でもあります。『「大人の旅」心得帖』の白鳥正夫さんは『「文化力」を磨こう、中高年!』と呼びかけています。僕にとっても、旅は生きていくことの確認の場でもあります。シニアの皆さん、シニア世代こそ海外への旅に出ようではありませんか。

(参考文献)

『定年バックパッカー読本 団塊は、世界をめざす!』大嶋まさひろ著 集英社刊

『僕たちは世界を変えることができない But、we wanna build a school in Cambodia』葉田甲太著 小学館刊

『一号線を北上せよ』沢木耕太郎著 講談社刊

『「大人の旅」心得帖』白鳥正夫著 三五館刊

当レポートは内容が多岐に渡りページ数が多いため、2回に分割して掲載いたしました。「東南アジア4ヶ国を旅する①」は「けやき便り」第11号でご覧いただけます。

「けやき便り」編集クラブ

「けやき便り」各号のカラー版が園田学園女子大学のホームページからご覧いただけます。

<検索方法>

園田学園女子大学
 尼崎市。大学・短期大学部案内、入試情報、学部・学科案内、公開講座情報、キャンパス。
www.sonoda-u.ac.jp/ - キヤッシュ

交通アクセス **総合生涯学習センター**
 学部・学科紹介 [受験生の方へ](#)
 オープンキャンパス [お問い合わせ先一覧](#)



総合学習センターの画面上段の学びの場の中から「シニア専修」をクリックする



シニア専修コース

総合生涯学習センター
 〒661-0820
 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1
 園田学園女子大学・短期大学部
 総合生涯学習センター
 TEL:06-6429-9908
 FAX:06-6421-7009
 syougaku@sonoda-u.ac.jp

よくあるご質問
 個人情報について

本学公開講座の発展型である3年制の専門コースです。新たに学びたい方、さらに深く学びたい方などにお



クラブ活動紹介

詳しくはこちらより



「けやき便り」編集クラブの紹介の後に「けやき便り」のバックナンバーが表示される

けやき便りバックナンバー

[けやき便り第11号発行日平成27年1月14日](#)

[けやき便り第10号発行日平成26年6月9日](#)

...

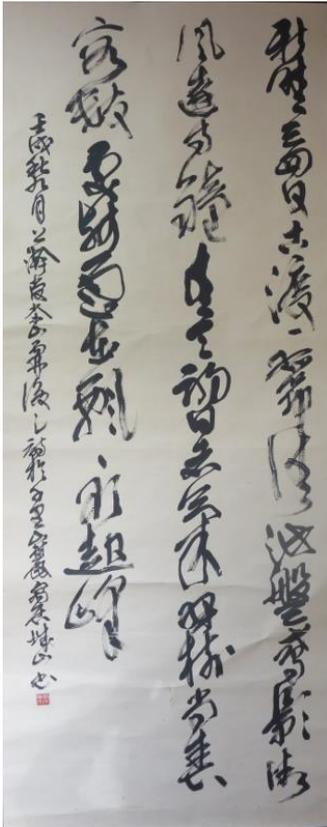
読者の広場

墨の香りにつつまれて

研究生 高木 城山 (貞夫)

真白な紙に文字を黒々と書く。作品制作に集中する時間の中で、ゆとりを持って自分自身の心を経て、文字に伝わり色々な形が出来上がる。表現したい言葉を通して書は限りなく広がっていく。

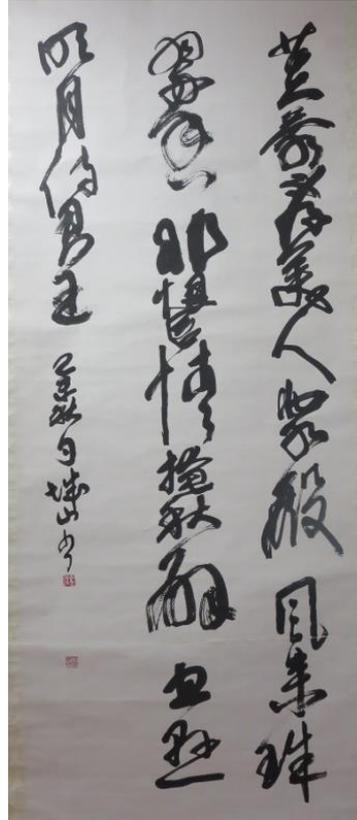
*平和の天地は小学六年時作品



新晴三四日 古渡一孤筇
清泚盤鳶影 微風遠寺鐘
青天初暑氣 緑樹尚春容
敷處殘雲在 飄々欲起峰

新晴三四日 古渡一孤筇
清泚盤鳶の影 微風遠寺の鐘
青天初めて暑氣 緑樹尚ほ春容
敷處に残雲在り 飄々として峰を起こさんと欲す

霖 後



西宮秋怨 (唐) 王昌齡
芙蓉不及美人妝
水殿風來珠翠香
卻恨含情掩秋扇
空懸明月待君王

芙蓉も及ばず 美人の粧い
水殿 風来りて 珠翠 香しく
却て恨む 情を含んで秋扇を掩い
空しく 明月を懸けて 君王を待つ



- 霖・りん、長雨
- 筇・四川省に産する竹の一種、杖
- 泚・水の清いさま
- 盤・ぐるぐるまわる
- 飄・さまよいただよ(漂)

読者の広場

こんな話 知ってる？

文学歴史学科2年 伊藤 幸子

- ◎ テニス同好会のあの人は
バックになれば右と左の両刀使い
(本人談では右往左往してるだけ?)
- ◎ スキンヘッドのあの人は
趣味の寺社仏閣巡りの途中
門前でお坊さんと間違えられた
(あっ僧！)
- ◎ 文歴のあの人は
3年かけて琵琶湖一周を目指してます
もうすぐゴールの予定
(ガンバッテ！！)
- ◎ 研究生のあの人は
5年程前、ニューヨーク・オフオフ・ブロードウェイでネイティブ英語の芝居を演じ、今は、とある市のFM放送で、たまに1時間番組のMCを務めています
(ぜひ観たい！ ぜひ聴きたい！)
- ◎ チンドンのあの人は
白塗りして、仲間と一番前で電車待ちしていたら、運転手がビックリして行き過ぎた
(どんな顔??)
- ◎ 遊歩クラブのあの人は
酒大学を卒業し利き酒認定証を持っている
(スゴイ！！)
- ◎ 文歴のあの人は
クレオパトラの豆を育ててるらしい
(シーザーサラダで食べたら美味しいかも)

「園田シニア人間探究」への応募

園田シニアの学生の中で興味深い人生経験をされた方や面白い趣味などに取り組みされている方の応募をお待ちしています。自薦他薦を問わず、多くの方のご紹介をお願いいたします。

連絡先：国際文化学科3年 樽井 敏彦

携帯：090-2833-8676

編集後記

今年も園田学園大学のシニア専修コースに66名の新入生を迎えることができました。

できるだけ早く学園の雰囲気慣れていただき、新たな知識の習得や新しい仲間たちとの交流などを通じて、楽しく有意義なシニアライフを過ごしていただきたいと思っています。「けやき便り」編集クラブにも新入生の方が入部され、今後の活躍を大いに期待しています。(T. T)

定年退職し会社人間から、新たな生き方を見出したいと思っています。その思いを実現させるクラブが「けやき便り」編集クラブと考え入部しました。

今回は、編集活動にタッチ出来ませんでした。経験豊富な人たちを中心に取材して「人生」を伝えたいと思っています。宜しく願い致します。(T. F)

シニア専修コースに入学する前に、公開講座の「園田・民博連携講座」を受講、そこでたまたまお会いした部員の方から「とても楽しいクラブです」とお聞きし、興味がわきました。

入学後、様子見にうかがった編集会議では真摯で活発な意見がユーモアたっぷりに飛び交い、本当に楽しそうで、その場で入部を決意しました。「けやき便り」は仲間の皆さんの学校生活の紹介や豊かな趣味、経験などを交換する有意義な場と感じています。編集作業は全く素人ですが、先輩の皆さんに教えていただきながら、一緒に作業させていただけることを楽しみにしています。(H. S)